

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日 13:00～14:00

会長 島村恵三

例会場 ANAクラウンプラザ
グランコートホテル名古屋

幹事 加藤正広

承認 2013年6月18日

公共イメージ
向上 藤谷 猛

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp



2022～2023年度名古屋アイリスRCのテーマ

ちょっと無理して一歩を踏み出し、
10年後のアイリスを創造し、
独自性を発揮して活動しよう。

第414回 例会

2022年9月7日 13:00～

- 司会 須賀祐介 例会・出席・親睦委員
- 斉唱 君が代、奉仕の理想
- 出席報告 出席者数 16名 / 27名
出席率 59.03%
- ゲスト 名古屋大学名誉教授 荒山裕行様
- ビジター

ニコボックス

- 資料未入手の為、後日記載させていただきます。

9月度 誕生日お祝い

18日 久留宮恭子さん

会長挨拶



皆さん、こんにちは。第414回例会です。島村会長は欠席のため代理挨拶させていただきます副会長の菊地富士子です。荒山先生による経済のお話をいただきます。よろしくお祈りします。先日豊橋北RCにて地区会員増強委員として卓話をさせていただきました。後ほど報告をいたします。

日本の女性社長率の推移は2014年11.58%から2021年14.25%と2.7%上昇しております。起業家数では30歳～50歳の男女比は2:1となっております。ではロータリーにおいてみますと、世界の女性会員率は25%、2760地区では6%です。女性会員の増加はロータリークラブの会員増強に大きな可能性があります。

「ロータリー女性の集い PART1—出合い—DEIを広げ深めよう。」のご案内です。日時2022年10月13日(木)名鉄グランドホテルにて開催されます。ぜひ皆様ご参加ください。

最後に豊橋北クラブの例会の紹介をします。「ロータリーの友」についての時間が設けられていました。会員に月刊誌が配布される日にロータリーの友より担当者がいくつかの記事を紹介しながら全体を見ておりましたので私も真似をします。9月号はローター0の友の70周年の記事が載っており興味深いです。ぜひご覧ください。

幹事報告



皆さんこんにちは、9月のロータリーのレートは\$1=139円です。

まず、先ほど例会の前に理事の皆さんへお話をしてお承認を頂きましたので、ご報告を致します。「青森県大雨災害(2830地区/青森)」義捐金についてです。青森県内では8月3日からの大雨により甚大な被害が発生しております。

当地区といたしまして、各クラブ皆様のご理解とご協力のもと義捐金を募り、被災地区へお届けしたいと存じます。この程、ガバナー会を通じて、被災地区(2830地区/青森)より支援先のご連絡が届きましたので、地区にて義捐金を取りまとめさせていただく所存です。ご賛同をいただける場合には、下記口座へお振込みのほどよろしくお願いいたします。という事で、今までの慣例でお1人1,000円として当クラブで29名¥29,000円の義援金をクラブ費より寄付したいと思いますので、皆様ご理解の程、宜しくお祈り致します。

米山梅吉記念館から事業資金のご支援を頂くお願いが来ております。まず、全国1人100円募金運動です。「100円の細い糸が館と全国を結ぶ」を合言葉に、平成12年に始まった運動で、現在活発に継続のご支援を頂いております。

もう一つは、賛助会員です。年間お1人3,000円(1口)で会費を頂き会員登録させていただきます。春秋年2回発行の館報を直接会員個人宛にお送りし、いち早く細やかな情報をお手元にお届けし館をより緊密に応援して頂いております。館報には、例祭時の講演や最新情報、梅吉翁のご遺徳によって絆を深める全国各地のロータリアンからのご寄稿など、多彩な記事を掲載しております。是非、ご入会を頂き、運営基盤の強化と、発展をご支援くださいます様宜しくお祈り申し上げます、と来ております。資料は、米山奨学の委員長澤田さんがお持ちですので、ご興味のある方は澤田さんまでお願い致します。

今月9月の卓話ですが、本日7日は荒山先生の「インフレ目標2%と突然の生活破壊大インフレ」という題材にて卓話を頂きます。宜しくお祈り致します。翌14日は、親睦夜間例会です。場所は伊藤さんのお店「香楽」です。18時より開催ですのでお間違えの無いようお願い致します。次の21日は、決算総会です。2021-22年度の決算です。次の28日は、北RCの当クラブ名

誉会員の水野さんの卓話です。新入会員様用に「これだけは知っておきたいロータリアンの心得」を題材に卓話を戴きます。当日は、新入会員予定者の竹川陽子さんが来られますので、皆様ご対応宜しくお願い致します。

以上、本日の幹事報告でした、有難う御座います。

卓話

【インフレ目標2%と突然の生活破壊インフレーション】

名古屋大学名誉教授 荒山裕行 様



経済学の大御所、シカゴ大学のミルトン・フリードマン教授は、「インフレーションは、いつでもどこでも貨幣的現象である」と述べている。

コロナ禍、ウクライナ有事に端を發した物価の上昇は、世間ではインフレーションと呼ばれているが、なにも直接的な貨幣的現象に起因するものではない。半導体や石油の供給がボトルネックとなったことで生じた市場価格の高騰である。ただ、半導体や石油が大半の産業の投入物となっているため、この価格上昇が多方面に波及し、「全体的な価格水準の上昇」つまりインフレーションとして受け止められているに過ぎない。

おりしも、日経新聞令和4年8月21日朝刊一面に、「インフレ税 米欧 4.5兆ドル」と言う記事が掲載されていたので、まず配布し、皆様方に読んでいただこうと思う。しかし、そこに書かれている「インフレ税」は、単に物価変動による債権者(国民)から債務者(政府)への所得移転であり、シカゴ大学で学んだ「インフレ税」とは、まったく違うものである。これが今の「インフレ税」だと主張されるなら、そうであるのかもしれないが、私には、大きな違和感がある。

難読漢字として、「芸える」がある。「うえる」と読み、根を張り幹が育つことを意味する。シカゴスクールの経済学も、歌舞伎や落語の修行と一緒に、そこにいて、「直感」を学んだものにしか伝わらない何かがある。

その「直感」のさわりをお話すると、皆様方のポケットに入っている一万円札は、日銀のカウンターを越えて我々の社会(市中)にでてきたものである。その一万円札、インフレによる物価高騰が原因で追加的に財布に入れる必要があったにせよ、国が、インフレで苦しむ庶民を助けるために配ってくれたものではない。最終的に国はその一万円に相当する財・サービスを国民から受け取ることになる。だからこそ、インフレは税金と同じになり、そのため、これが「インフレ税」と呼ばれることになった。

さらに、現在の金融制度では、市中銀行による信用創造を通し、通貨(現金+当座預金)が提供されている。このことは、三井住友銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行などは、最終的にこの「インフレ税」大半を、銀行所有としての金融資産として手にすることができることを意味する。

おそらくだが、長年続いたデフレ経済とゼロ金利政

策で青息吐息の市中銀行は、これで一息つけるのではないかと思われる。これは、私の「直感」にしか過ぎない。しかし、もしも、再び市中銀行が預金集めに力を入れ始め(たくさん預金を集めた銀行がより大きな分け前を獲得できる!)、途絶えていたティッシュペーパーを配りだしたら、この卓話の「直感」を思い出していただけると幸いである。